大阪　方言探究　　Dialect in Osaka

Abstract

We investigated about the difference arising from the age of the dialect currently used in Osaka.

１．目的

大阪の方言を普段話すときに、生徒の中で使う言葉に違いがあることに興味を持った。また調べていくうちに、同世代間だけではなく、保護者と生徒の間にも違いがみられることに気付いた。私たちはそれについて詳しく調べることにした。

２．方法

初めに、生野高校２年生にアンケートを実施し、その後、保護者にもアンケートを実施した。

３．結果

・男子生徒の一人称：幼稚園生や小学生のあいだは「僕」が最も多い。しかし、年を経ることに徐々に減り、ほとんどの男子高校生が「俺」を使うようになる。
・女子生徒の一人称：自らの名前で呼ぶ人もいるが、徐々に減っている。「私」や、関西によく使われる「うち」といった一人称を使う人が大半である。
・「あだ名」や「ちゃん」は年を経るにつれて減少していった。また、保護者でも同じ傾向がみられた。
・「しない」の表現方法：「せーへん」と回答した人は生徒 101 人中 71 人、保護者 117 人中 98 人。
・「来ない」の表現方法：「こーへん」と回答した人は生徒 101 人中 40 人、保護者 117 人中。「けーへん」と回答した人は生徒 35 人、保護者 80 人中 18 人。

「しない」「こない」ともに、そのほかの回答はごく少数だった。

４．結論

男子生徒の一人称：「僕」が減少傾向にある理由として、小学生から中学生になるにつれて他人からどう思われたいのか、もしくは周りの人に合わせたい等という心理が強くなってくることがあげられる。また「僕」は目上の人に対して使われることにも象徴されるように多少改まった印象があるから、小中学生の多感な時期には気はずかしいのだと思われる。少年漫画やアニメなどのヒーローが一人称に「俺」を多く用いていることも「僕」が「俺」に推移していく要因の一つではないか。

女子生徒の一人称：年齢を重ねるにしたがって、目上の人と会話する機会が増えるので、「私」や「あたし」などのオフィシャルな印象がある一人称は増加していく傾向にある。「うち」は関西地方で多く用いられるため、どの年齢でも使用するひとの割合が高い。

「しない」の表現方法：年代はほとんど関係ないのではないか。「せーへん」という言葉の頭文字の母音がエ段なのに対して他の表現の母音はイ段やア段に偏っている。大阪の人に限らず日本人は「い」を「え」に変える傾向がある。(例)「とけい」→「とけえ」　この傾向が大阪などの関西圏では特に強いため、「しない」を「せーへん」に変える人が多いという結果になったのではないか。

「来ない」の表現方法：生徒では「こーへん」の割合が、保護者では「けーへん」の割合が最も高い。

「こー」や「けー」など伸ばす音が入っている割合が高い。「けーへん」「こーへん」「こやん」など全てに「ん」がついているため、「しない」の調査もふまえると大阪の人は否定系に「ん」をつける傾向があるのではないか。

＊引用文献　　ウィキペディア

＊キーワード　　方言　大阪　「～へん」　イ段→エ段